

第 22 回バイオ治療法研究会学術集会 プログラム・抄録集

日時：2018 年 12 月 8 日（土） 09：20 – 20：00

場所：東京女子医科大学 臨床講堂 1

〒162-8666 東京都新宿区河田町 8-1

目次

第 22 回バイオ治療法研究会学術集会の開催にあたって・・・・・・・・・・	3
交通のご案内・・・・・・・・・・	4
会場のご案内・・・・・・・・・・	5
当日のご案内・・・・・・・・・・	6
研究会当日スケジュール・・・・・・・・・・	7
研究会プログラム・・・・・・・・・・	8
特別講演抄録・・・・・・・・・・	13
ワークショップ抄録・・・・・・・・・・	17
一般演題抄録・・・・・・・・・・	23
研究会会則／細則・・・・・・・・・・	47
研究会役員名簿・・・・・・・・・・	50
これまでの学術集会の概要・・・・・・・・・・	52

学術集会事務局：東京女子医科大学産婦人科学講座

〒162-8666 東京都新宿区河田町 8-1

TEL：03-3353-8111（内 30251）

FAX：03-5269-7619

E-mail：onoe.yoshiko@twmu.ac.jp

当番世話人：橋本 和法（東京女子医科大学東医療センター産婦人科）

小林 博人（東京女子医科大学輸血・細胞プロセッシング部）

第 22 回バイオ治療法研究会学術集会の開催にあたって

このたび、第22回バイオ治療法研究会学術集会を、東京女子医科大学臨床講堂1において開催することになりました。本研究会は、「生物そのものの機能あるいは生物や生体の構成成分の機能を、利用、応用、模倣する技術であるバイオテクノロジーを、生体防御機構の賦活を介した治療法の確立をめざす研究者の集まりである」と定義されていますが、近年のバイオ解析技術の飛躍的な進歩により、バイオテクノロジーを基盤にしたがんを始めとする各種疾患の新たな治療法開発の可能性が広がっています。20年以上続いてきた本研究会が、次の世代において益々発展していくことを願い、今回の学術集会のテーマを「がん集学的治療における免疫療法」とつけさせていただきました。

本年のノーベル医学・生理学賞において本庶佑教授、James P. Allison教授が共同受賞され、がん免疫療法が大変世間に注目される機会となりました。PD-1およびCTLA-4の発見と免疫チェックポイント阻害薬の臨床応用は、がん免疫療法において数種類のがんでは画期的な臨床的進歩をもたらすとともに更なる有効な臨床応用が期待されます。

今回の特別講演は三題といつもより多めですが、本学においてがん免疫療法の臨床研究を実践されている三人の先生方をお招きして、講演をしていただく予定となっています。

会員の皆様におかれましては、非常に多数の演題申し込みをいただき感謝いたします。今回はワークショップを基礎的な研究三題、臨床的な研究三題の計六題といつもより増やさせていただくことに加えて、一般演題につきましては質疑応答を含めて一題7分に短縮させていただきますことをこの場を借りてお詫びします。演題発表後の質疑応答においても、十分な時間が確保できない場合が多々あると予想いたしますが、学術集会終了後の懇親会の場においても、引き続きご討論をお願いできればと存じます。

最後になりましたが、本研究の企画・運営にあたり、多くのご助言、ご支援を賜りましたこと厚く御礼申し上げます。

平成30年12月8日

当番世話人

橋本 和法（東京女子医科大学東医療センター産婦人科）

小林 博人（東京女子医科大学輸血・細胞プロセッシング部）

交通のご案内

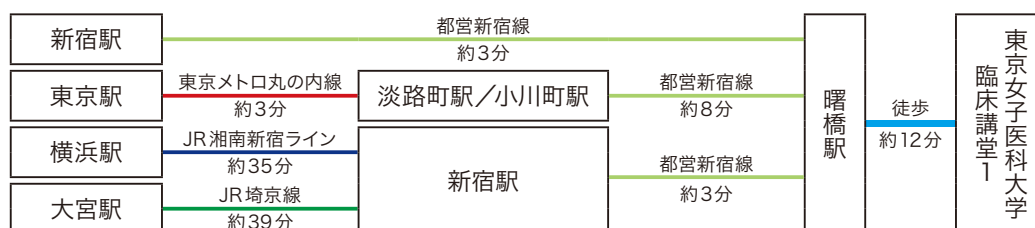
- 会場 東京女子医科大学 臨床講堂1
〒162-8111 東京都新宿区河田町8-1
アクセスの確認：<http://www.twmu.ac.jp/univ/access.php>
<http://www.twmu.ac.jp/info-twmu/access.html>



■アクセス方法

▽地下鉄

- 都営大江戸線 若松河田駅下車、若松口より徒歩約5分
牛込柳町駅下車、西口より徒歩約8分
都営新宿線 曙橋駅下車、A2出口より徒歩約12分



▽都営バス

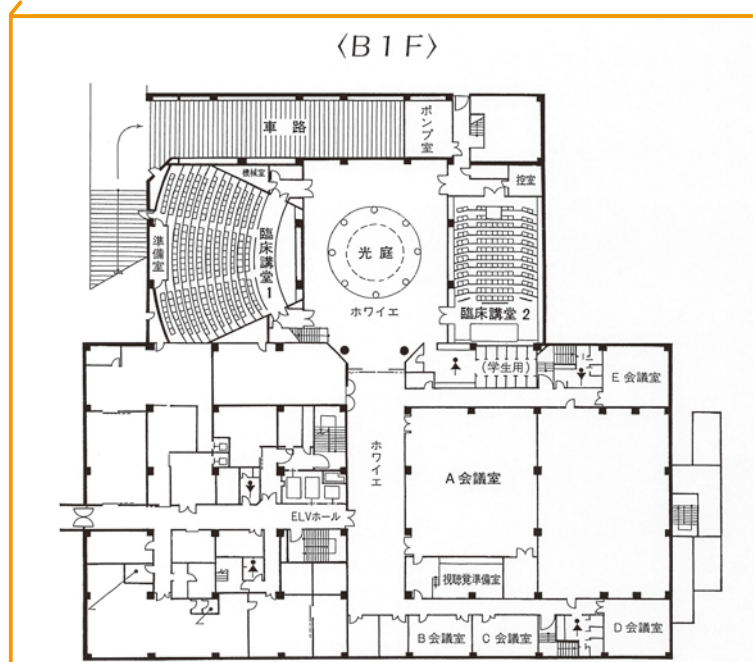
宿74系統 新宿駅西口 → 東京女子医大前

宿75系統
・新宿駅西口 → 東京女子医大前
・三宅坂 → 四谷駅前 → 東京女子医大前

早81系統
・早大正門 → 馬場下町(早稲田駅) → 東京女子医大前
・渋谷駅東口 → 原宿駅 → 千駄ヶ谷駅 → 四谷三丁目 → 東京女子医大前

高71系統
・高田馬場駅前 → 東京女子医大前
・九段下 → 市ヶ谷駅 → 東京女子医大前

会場のご案内



当日のご案内

【開催要項】

学術集会名：第22回バイオ治療法研究会学術集会

開催期日：平成30年12月8日(土) 午前9時20分～午後8時00分

開催場所：東京女子医科大学臨床講堂1（〒162-8111東京都新宿区河田町8-1）

当番世話人：橋本和法／小林博人

【研究会当日のご案内】

1. 参加者の皆様へ

平成29年12月8日(土) 午前9時20分より受付開始

参加費10,000円を当日、会場受付でお支払いください。

（懇親会費を含みます。なお、年会費とは別になっています。）

2. 演者の皆様へ

1) 一般演題

発表時間は1題5分です。質疑応答時間は2分です。[合計7分]

2) ワークショップ

発表時間は1題10分です。質疑応答時間は5分です。[合計15分]

3) 特別講演

発表時間は30分です。質疑応答時間は5分です。[合計35分]

4) 発表形式

- ・すべてPCプレゼンテーションで行います。
- ・発表者はPC本体をご持参下さい。（タブレットは使用できません）
- ・プロジェクター側の映像入力端子はD-sub mini 15pin です。この形状に変換するコネクタを必要とする場合には、必ずご自身でコネクタをお持ち下さいますようお願い致します。
- ・レーザーポインターは、パワーポイント対応*のもの（KOKUYO：ELA-G130）を用意します。

<対応OS>日本語Windows Vista/7/8/8.1/10 日本語MacOS 9.2.2/10.1～10.11

<対応パワーポイント>Windows用 2003/2007/2010/2013/2016

Mac用 98/2001/X/2004/2008/2011/2016

5) PC受付・試写

- ・ご発表のセッションが始まる10分前までに、会場前のPC受付にて試写を行い、PCをお預け下さい。
- ・動画等がある場合は試写の際にスタッフにお伝え下さい。

3. 座長の皆様へ

座長受付にお寄り下さい。

ご担当のセッションの開始5分前までに次座長席へお着きください。

進行はお任せいたしますが、終了時間はお守り下さい。

4. 役員の皆様へ

当日昼休みに、第一病棟第一会議室にて役員会を開催します。

5. 会員および新入会員ご希望の皆様へ

当研究会事務局の受付で年会費（一般：5,000円／学生：2,000円）をお支払いください。

新入会の手続き（一般会費：5,000円／学生会費：2,000円）もおこなっています。

研究会当日スケジュール

12月8日	プログラム	演題数	担 当	会 場
9:20－9:50	受付	—	学術集会事務局	東京女子医科大学 臨床講堂1
9:50－10:00	開会の辞	—	挨拶：橋本和法	
10:00－10:28 10:29－11:11	一般演題1：がん臨床 一般演題2：がん治療	4 6	座長：四元房典 座長：神垣 隆	東京女子医科大学 臨床講堂1
11:11－11:16	休憩	—		
11:16－11:44 11:45－12:20	一般演題3：がん免疫 一般演題4：免疫	4 5	座長：後藤重則 座長：角田俊之	東京女子医科大学 臨床講堂1
12:20－13:50	昼休み(お弁当) <この間、役員会>	—	<役員全員>	東京女子医科大学 臨床講堂1 第一病棟第一会議室
13:50－14:25	一般演題5：生活習慣病	5	座長：稲川裕之	東京女子医科大学 臨床講堂1
14:27－15:57	ワークショップ	6	座長：大野芳典 座長：宮原大輔	東京女子医科大学 臨床講堂1
15:57－16:17	コーヒープレイク	—		
16:20－18:05	特別講演： 演者： 1. 小林博人 （東京女子医科大学輸血・細胞プロセ シング部） 2. 村垣善浩教授 （東京女子医科大学先端生命医科学 研究所 先端工学外科） 3. 有賀淳教授 （東京女子医科大学先端生命医科学 研究所）	3	座長：橋本和法	東京女子医科大学 臨床講堂1
18:05－18:10	閉会の辞	—	挨拶：小林博人	
18:20－20:00	懇親会(総合外来センター 3階に移動)	—	希望者全員	松本楼

研究会プログラム

特別企画プログラム

16:20 – 18:05

○特別講演

座長：橋本和法(東京女子医科大学東医療センター産婦人科)

1. $\gamma\delta$ 型T細胞を用いたがん免疫細胞療法

演者：小林 博人 先生

(東京女子医科大学輸血・細胞プロセッシング部・講師)…………… 13

2. 膠芽腫に対する自家腫瘍ワクチン含めた新規免疫療法

演者：村垣 善浩 先生

(東京女子医科大学先端生命医科学研究所先端工学外科・教授)…………… 14

3. 自己がん抗原特異的Precision Immunotherapyの探求

演者：有賀 淳 先生

(東京女子医科大学先端生命医科学研究所・教授)…………… 15

ワークショッププログラム

14:27 – 15:57

●ワークショップ(1)

座長：大野芳典(広島大・原医研・幹細胞機能学)

1. 造血幹細胞と白血病幹細胞の幹細胞活性を制御する中核因子Geminin

竹立恭子¹、大野芳典¹、川口健介¹、白須直人²、大坪素秋³、安永晋一郎²、瀧原義宏^{1,4}

(¹広島大・原医研・幹細胞機能学、²福岡大・医学部・生化学、³別府大・食物栄養科学部・発酵食品学科、⁴日赤・大阪府赤十字血液センター)…………… 17

2. 骨髄腫微小環境標的sgRNA薬による新たな多発性骨髄腫治療法の開発

石川達矢、灰野亜理沙、高橋昌幸、関峰 秋、梨本正之(新潟薬科大学健康・自立総合研究機構)…………… 18

3. KRAS変異大腸癌細胞塊とCytokine-activated killer細胞の共培養系におけるCD155/TIGIT経路の役割の解析

角田俊之^{1,4}、西 憲祐^{1,2}、羅 昊¹、梅林雅代³、森崎 隆³、白澤専二^{1,4}

(¹福岡大学医学部細胞生物学、²福岡大学医学部耳鼻咽喉科、³福岡がん総合クリニック、⁴福岡大学基盤研究機関先端分子医学研究所)…………… 19

●ワークショップ(2)

座長：宮原大輔(福岡大学医学部産婦人科学)

1. 膵管内乳頭粘液性腫瘍におけるmatrix metalloproteinase(MMP) 発現の検討
赤司昌謙、久下 亨、石川博人、酒井久宗、川原隆一、野村頼子、後藤祐一、小嶋聡生、緑川隆太、谷脇慎一、
安永昌史、赤木由人、田中啓之、奥田康司
(久留米大学外科学講座) 20
2. 大腸癌肝転移の術前化学療法がおよぼす類洞内皮細胞障害についての検討
久下 亨、石川博人、酒井久宗、川原隆一、野村頼子、後藤祐一、小嶋聡生、緑川隆太、谷脇慎一、安永昌史、
赤木由人、田中啓之、奥田康司
(久留米大学外科学講座) 21
3. 胆道内乳頭状腫瘍切除例の臨床病理学的検討
佐藤寿洋、久下 亨、石川博人、酒井久宗、川原隆一、野村頼子、後藤祐一、小嶋聡生、緑川隆太、谷脇慎一、
安永昌史、赤木由人、田中啓之、奥田康司
(久留米大学外科学講座) 22

一般演題プログラム

●一般演題1：がん臨床

10:00-10:28

座長：四元房典(福岡大学医学部産婦人科学)

1. 晩期再発子宮体癌の臨床的特徴
宮原大輔¹、四元房典¹、勝田隆博¹、伊東智宏¹、南 星旭¹、金森康展²、尼田 覚³、宮本新吾¹
(¹福岡大学医学部産婦人科、²総合病院山口赤十字病院、³北九州市立医療センター) 23
2. 婦人科がん化学療法における悪心・食欲不振および摂食状況に関する後方視的検討
小松宏彰^{1, 2}、佐藤慎也²、小作大賢²、澤田真由美²、下雅意り²、千酌 潤²、工藤明子²、野中道子²、
大石徹郎²、原田 省²
(¹総合病院山口赤十字病院産婦人科、²鳥取大学医学部附属病院生殖機能医学) 24
3. 胆嚢癌切除例における癌紡錘形細胞の臨床的意義
緑川隆太、久下 亨、平川雄介、野村頼子、中山剛一、後藤祐一、佐藤寿洋、川原隆一、酒井久宗、石川博人、
安永昌史、赤木由人、奥田康司
(久留米大学医学部外科学講座消化器外科肝胆膵部門) 25
4. 膵腺扁平上皮癌7切除例における臨床病理学的検討
谷脇慎一、久下 亨、野村頼子、中山剛一、平川雄介、後藤祐一、佐藤寿洋、川原隆一、酒井久宗、石川博人、
安永昌史、赤木由人、田中啓之、奥田康司
(久留米大学外科学肝胆膵外科) 26

●一般演題2：がん治療

10:29－11:11

座長：神垣 隆(順天堂大学・瀬田クリニックグループ)

1. 薬剤キャリアのミセルが示す癌細胞障害性
西平有里菜¹、田端厚之^{1,2}、友安俊文^{1,2}、大倉一人³、長宗秀明^{1,2}
(¹徳島大院・先端技術科学教育・生命テクノサイエンス、²徳島大院・社会産業理工学・生物資源産業学、³鈴鹿医療科学大・薬・薬剤学)…………… 27
2. Chiral-2-nitroimidazole骨格を有するTX-2036誘導体の開発：放射線増感能の修飾に関わる分子特性の検証
田端厚之¹、宇都義浩¹、堀 均¹、大倉一人²
(¹徳島大学大学院生物資源産業学域、²鈴鹿医療科学大学大学院薬学研究科)…………… 28
3. 低濃度LPS活性化単球系細胞とのクロストークによるがん細胞のアポトーシス誘導
本田晃子¹、稲川裕之^{2,3}
(¹麻布大学生命・環境科学部臨床検査技術学科、²新潟薬科大学健康・自立総合研究機構、³自然免疫制御技術研究組合)…………… 29
4. 新規に開発した食細胞貪食能・好中球活性評価システムを用いた食道癌および胃癌患者での評価
小原英幹¹、坂名城隼²、稲川裕之^{2,3}、森 宏仁¹、西山典子¹、千代大翔¹、川西寿美²、山下雅史²、数村公子⁴、美和登志幸⁴、森下直計⁴、上里裕樹⁵、杉山康憲⁵、杉源一郎^{2,3}、正木 勉¹
(¹香川大学医学部、²自然免疫制御技術研究組合、³新潟薬科大学、⁴浜松ホトニクス(株)、⁵香川大学農学部)… 30
5. 末梢血T細胞のIS形成能の測定法の確立
山下公大、田中智子、杉田 裕、渡部晃大、福岡英志、田中智子、有本 聡、瀧口豪介、高瀬信尚、長谷川寛、山本将士、金治新悟、松田佳子、松田 武、押切太郎、中村 哲、鈴木知志、掛地吉弘
(神戸大学大学院医学研究科外科学講座食道胃腸外科学分野)…………… 31
6. Gymnosis関連分子とメカニズムの解明
高橋昌幸^{1,2}、Viorica Raluca Contu²、株田千華²、長谷勝徳²、藤原悠紀²、和田圭司²、株田智弘²
(¹新潟薬科大学健康・自立総合研究機構機能性核酸分子治療学研究室、²国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター神経研究所疾病研究第四部)…………… 32

●一般演題3：がん免疫

11:16－11:44

座長：後藤重則(瀬田クリニックグループ)

1. 卵巣癌患者から腹水濾過フィルターを用いて採取した腹水中 $\gamma\delta$ 型T細胞の培養と細胞傷害活性
阿部結貴¹、小林博人²、秋澤叔香¹、石谷 健³、橋本和法⁴
(¹東京女子医科大学産婦人科学講座、²東京女子医科大学輸血・細胞プロセッシング科、³北里大学北里研究所病院婦人科、⁴東京女子医科大学東医療センター産婦人科)…………… 33

2. 大腸癌に対する免疫細胞療法の予後規定因子に関する検討
瀧本理修^{1, 2, 3}、神垣 隆^{2, 3}、岡田佐知子²、松田英利子²、井邊 寛²、小熊恵利²、内藤恵子¹、牧田香理¹、
後藤重則^{1, 3}
(¹医療法人社団混志会瀬田クリニックグループ、²医療法人社団混志会瀬田クリニックグループ臨床研究・治験
センター、³順天堂大学次世代細胞・免疫治療学)…………… 34
3. 消化器癌における術前療法による癌免疫微小環境の変化
福岡英志¹、山下公大¹、中川暁雄²、長谷川寛¹、松田 武¹、山本将士¹、金治新悟¹、松田佳子¹、押切太郎¹、
中村 哲¹、鈴木知志¹、掛地吉弘¹
(¹神戸大学大学院医学研究科外科学講座食道胃腸外科学分野、²兵庫県立淡路医療センター)…………… 35
4. マウス腹膜播種モデルにおける腹腔内骨髄由来免疫抑制細胞(MDSC)の推移
杉田 裕、山下公大、福岡英志、田中智子、有本 聡、瀧口豪介、高瀬信尚、長谷川寛、山本将士、金治新悟、
松田佳子、松田 武、押切太郎、中村 哲、鈴木知志、掛地吉弘
(神戸大学大学院医学研究科外科学講座食道胃腸外科学分野)…………… 36

●一般演題4：免疫

11:45－12:20

座長：角田俊之(福岡大学医学部細胞生物学)

1. 酢酸菌体(*Gluconacetobacter hansenii*)の経口投与による免疫制御作用と花粉症抑制効果
稲川裕之^{1, 2}、西澤孝志³、河内千恵³、杣源一郎^{1, 2}
(¹自然免疫制御技術研究組合、²新潟薬科大学、³自然免疫応用技研)…………… 37
2. LPS塗布ダニ抗原感作アトピーモデルマウスの皮膚遺伝子への影響探索
若命浩二¹、小松健一¹、稲川裕之^{2, 3}、河内千恵²、杣源一郎^{2, 3}、内山博允⁴、長島孝行⁵
(¹北海道科学大学薬学部、²自然免疫制御応用技術研究組合、³新潟薬科大、⁴東京農業大学生物資源ゲノム解
析センター、⁵東京農業大学農学部)…………… 38
3. T細胞における転写制御分子Zfatの機能発現機構の解明
土井佳子^{1, 2}、角田俊之^{1, 2}、小柳 緑^{1, 2}、石倉周平^{1, 2}、田中陽子^{1, 2}、白澤専二^{1, 2}
(¹福岡大学医学部細胞生物学、²福岡大学基盤研究機関先端分子医学研究所)…………… 39
4. 形態的観察および解析から明らかにするマクロファージの多様性
川勝薫平¹、石川真実¹、真柴里歩¹、トラン ゴック キェト¹、岩崎哲史²、西方敬人¹
(¹甲南大学フロンティアサイエンス学部、²甲南大学フロンティアサイエンス研究科、³神戸大学バイオシグナル総
合研究センター)…………… 40
5. serum-MAFによるマクロファージ貪食能上昇メカニズムの解析
石川真実¹、真柴里歩¹、川勝薫平²、Ngoc Kiet Tran²、岩崎哲史³、西方敬人^{1, 2}
(¹甲南大学大学院フロンティアサイエンス研究科、²甲南大学フロンティアサイエンス学部、³神戸大学バイオシグナ
ル総合研究センター)…………… 41

1. 高血圧モデルラットを用いたパントエア菌LPS経口投与の高血圧予防効果
張 燃^{1, 2}、稲川裕之^{1, 3}、内堀幸子¹、杣源一郎^{1, 3}
(¹自然免疫制御技術研究組合、²(株)ウメケン、³新潟薬科大学) 42
2. 下垂体卒中とHMGB1
奥田武司¹、藤田 貢^{1, 2}、加藤天美¹
(¹近畿大学医学部脳神経外科、²近畿大学医学部微生物学) 43
3. ホメオスタシス多視点評価システムの暫定基準範囲の設定とその評価
玻名城隼¹、稲川裕之^{1, 2}、張 燃¹、川西寿美¹、山下雅史¹、中本 尊¹、數村公子³、波多野薫子³、土屋広司³、
西本尚樹⁴、小原英幹⁴、正木 勉⁴、杣源一郎^{1, 2}
(¹自然免疫制御技術研究組合、²新潟薬科大学、³浜松ホトニクス(株)、⁴香川大学医学部) 44
4. *Pantoea agglomerans* 由来LPS経口投与の食能増強効果
玻名城隼¹、稲川裕之^{1, 2}、川西寿美¹、溝渕悠代¹、杣源一郎^{1, 2}
(¹自然免疫制御技術研究組合、²新潟薬科大学) 45
5. LPSによるMicroglia活性化に関連する分子の探索
溝渕悠代¹、玻名城隼¹、稲川裕之^{1, 2}、杣源一郎^{1, 2}
(¹自然免疫制御技術研究組合、²新潟薬科大学) 46